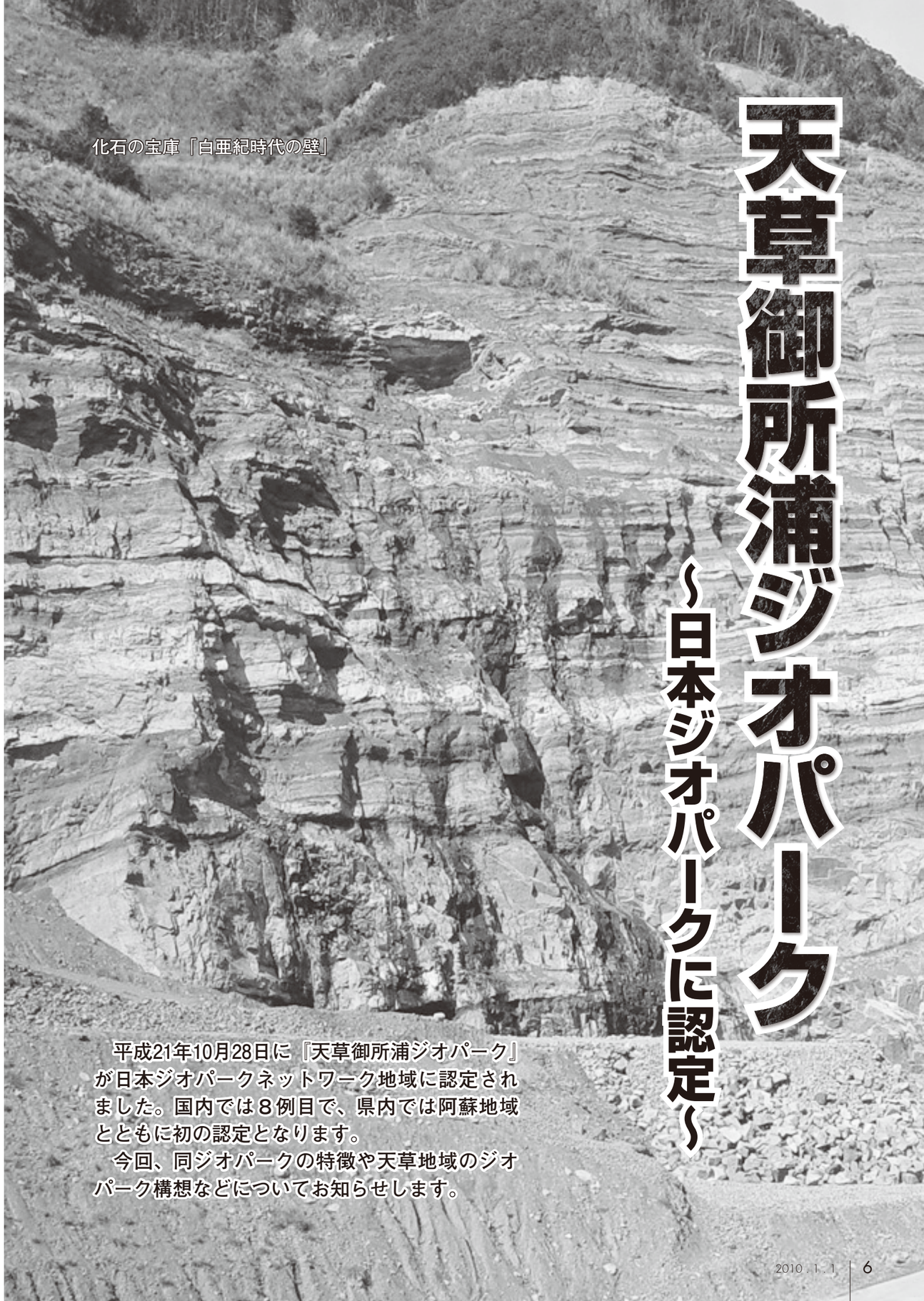

化石の宝庫「白亜紀時代の壁」

天草御所浦ジオパーク
～日本ジオパークに認定～

平成21年10月28日に『天草御所浦ジオパーク』が日本ジオパークネットワーク地域に認定されました。国内では８例目で、県内では阿蘇地域とともに初の認定となります。
今回、同ジオパークの特徴や天草地域のジオパーク構想などについてお知らせします。

天草御所浦ジオパークの特徴

日本ジオパーク委員会から本市の御所浦地域が平成21年10月28日、日本ジオパークネットワーク地域に認定され、『天草御所浦ジオパーク』が誕生しました。今回の認定により、日本ジオパーク地域は11カ所になりました。

御所浦地域のジオパークへの取り組みの基本理念は、旧御所浦町が平成10年から推進していた「全島博物館構想」に基づいています。『天草御所浦ジオパーク』の拠点となる天草市立御所浦白亜紀資料館（旧御所浦町立）は、同９年の開館以来、御所浦地域から産出する恐竜の化石をはじめとする数多くの種類の化石を中心に、天草地域の地質や地形資料を展示・公開しています。

それだけでなく、化石を軸にした自然環境教育プログラムを設け、積極的に教育活動を行ってきました。たとえば修学旅行で来島した生徒たちは、資料館で地質を学んだり、採掘場で化石を採集したりしながら島内の各家庭にホームステイし、島の生活を体験しています。生徒たちはそれぞれの家庭や地域の人々との交流の場で、日ごろとは違った視点により、この島の魅力を見たり感じたりするなかで、新たな交友関係のあり方を学び・知り、また、違った世界に視野を広げて成長していきます。

同地域でのこのような活動は、青少年に自然環境を実体験として学ぶ場を提供するだけでなく、地域活性化の推進母体となりつつあります。また、磯観察、とんとこ漁体験、伝馬船こぎ体験など、地域の自然や文化と融合したプログラムと組み合わせた教育・観光が実施できるのも『天草御所浦ジオパーク』の特徴といえます。

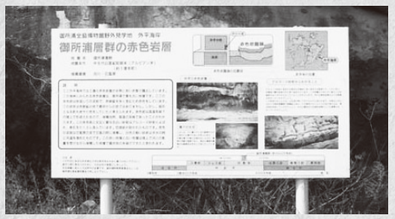
▲８月に開催された親子セミナーのようす

“ジオパーク”って何？

ジオパークとは、重要な地質・化石・地形が存在するとともに、大地にかかわりながら生きる人々や文化・動植物の生態系があり、地域に保護されつつ活用されている地域のことで「大地の遺産を活用した自然公園」と表現できます。このジオパークには、ユネスコ（UNESCO：国際連合教育科学文化機関）の支援で設立された世界ジオパークネットワーク（GGN）と、世界の各地域が組織するジオパークネットワーク、たとえば日本ジオパークネットワーク（JGN）など、２つの組織があります。平成21年11月の時点で、GGN地域に19カ国64地域（日本の３地域を含む）、JGN地域に11地域（日本の世界ジオパーク３地域〔北海道・洞爺湖有珠山、新潟県・糸魚川、長崎県・島原半島〕を含む）が認定されています。

ジオパーク地域は、ジオサイトとよばれる地形や地層などを観察・体験できる場所と、それを楽しむ資料・説明板を整備し、ツアーや学習旅行などのジオツアーを企画するとともに、地域の物産やジオパークに関わる商品などで地域振興することができます。

▲生物保護地看板



▲地層解説板